

事例④（大熊町教育委員会の研修会）

●**研修名**：令和6年度 社会教育委員研修

地域における学校との協働活動のコーディネーターの役割と効果 についての研修会

- 目的**：今後、地域学校協働本部を設置することを目的とし、地域学校協働活動を実施していくための準備として、認定こども園・義務教育学校の地域学校協働活動の中心となる地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の役割と効果について知る。また、活動の企画運営者（教職員・社会教育関係者等）の資質向上・相互理解を図り、活動の素地を作ることを目的とする。

●**主催者**：大熊町教育委員会

●**開催日時**：令和6年9月18日（水）

13時15分～16時00分

●**会場**：大熊町役場 1階 多目的ホール

●**講義**：地域における学校との協働活動のコーディネーターの役割と効果について

●**講師**：全国体験活動ボランティア活動

総合推進センター

コーディネーター 橋本 洋光氏

●**受講対象者**：社会教育委員他教育委員会内各委員、教職員、行政職員、民間関係団体・企業、生涯学習・社会教育関係団体等

●**参加者数**：27名

●**研修内容**：

講義

◎なぜ地域学校協働活動か

◎連携・協働の目的＝私たちのミッションは何か

◎学校運営協議会の大切な点、地域学校協働活動の課題と課題解決策

◎コーディネーターの役割、地域連携担当教職員のしごと

◎地域教育資源の活用（人材：地域ボランティア）、地域ボランティアをどう集めるか

◎地域資源を活用した学習プログラム開発、社会に開かれた教育課程＝協働的な学び

◎学校を核とした地域づくり

◎連携・協働で育つ子供像

◎生涯学習の在り方

演習

ワークショップによる研修



「地域の教育資源を生かした『社会に開かれた教育課程』をつくってみよう」

<主な感想等>

【講義についての感想】

- まさに、ゆめの森が目指していることが、これからの社会に必要なだと改めて思いました。
- コーディネーターの役割がよく理解できました。
- 昨年から参加させて頂いているゆめの森での取組が、間違っていなかったんだと思えてありがたいです。
- 地域連携について基本的な所を知ることができた。大熊町では、どう活用していけばよいかと考えた。
- 改めてボランティア論について認識できたと共に、大熊からの思考もでき大変学びになりました。
- ボランティア活動が自分を育てるには重要なんだということを知りました。
- 地域協働の制度上の仕組みやあり方を教えていただき、勉強になりました。
- 難しかったけど、本気で考えなくてはならない問題だと思いました。
- 0才～15才までのシームレスな教育と共に、学校と地域のシームレス化に向けて、開かれた園・学校づくりに取り組んでいきたいと思えます。
- 地域と学校の連携について改めて知れました。
- これからの学校と地域の連携が大事であることの重要性を講義していただいたので、今後少しでも生かせるよう参加していきたいと思いました。

【ワークショップについての感想】

- 大熊を思い出しながらワークショップし、とても楽しい時間になりました。
- 様々な立場・年齢の人が一緒に考え、話し合っってプログラムを考えることができた。
- もっとたくさんの人財を知らないといけないな、コーディネーターとしてもっと成長したいなと思いました。

○実現できそうなこと、そうでないけど長い時間をかけてできそうなことなど、たくさんアイデアがあり良かった。

○普段お会いできない町内の方々とお知り合いになれ、大熊自体をより知ることができた。

○ふるさを再確認することができて良かった。

○地域には教材になり得る素材がたくさんあることが分かり、これを生かさない手はないと思いました。

○初めて会った方と意気投合し、楽しく語ることができました。

○皆で考えたプログラムをぜひ実現したいです。